

緑の風

JR東労組
NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union

2025年11月6日 No.37

JR東労組首都圏協議会主催

「年末手当満額獲得！ 11.4総決起集会」



中央本部とバス関東本部交渉団へ檄布を手渡す！

首都圏協議会は11月4日、東京地本会議室で年末手当の満額獲得と経営姿勢に抗してたたかう意思統一のために集会を開催し、各地方本部から60名以上の仲間が結集しました。

唐紙副議長の挨拶では、「不当労働行為が繰り返される会社を是正し、安心してJR東労組に加入できる会社をつくるため」に団体交渉を7年間積み重ねてきたが、組合からの新たな事実の指摘に対して「初めて聞いた内容だが、新たな事実はない」「会社幹部の皆さんは、不当労働行為はやってはならないと理解しているので絶対にやらない」と根拠のない回答と、調査を行わないとの回答に終始したため、不誠実団交という判断をして労働委員会等に申し立てた根拠が明確に述べられ、職場から年末手当の満額獲得と合わせてたたかう決意が述べられました。

その後、中央本部の新保政治・共闘部長から第一回交渉での会社の回答に現れる経営姿勢が語られ、更に職場から出された声を基に、団体交渉へ臨んでいく決意が述べられました。

参加者からは「不当労働行為を職場から打ち返す取り組み」「組織再編を通じた新たな担い手づくり」「年末手当のたたかいを通じた、分会・支部・地本組織の確立と組織拡大」「バス関東本部の掲示板を活用した分会の取り組み」「経営姿勢と職場実態の乖離」等、各地方から7名が年末手当満額獲得のみならず、組織の強化と拡大でチェック機能を働かせ、労働組合らしくたたかうことが発言されました。

野中副議長のまとめでは、経営側と現場の認識の乖離が生まれるとどうなるのか？AIのコパイロットに尋ねると、

- ①「安全への懸念：経営側が収益確保を優先し、「安全第一」の理念が薄れることに対して現場から否定的な声が上がっている。これにより、現場の士気が低下し、事故や事象の増加につながる可能性がある」
- ②「モチベーションの低下：経営側が現場の厳しい労働実感や生活実感に真摯に向き合わない場合、組合員・社員のモチベーションが低下し、業績や職場環境に悪影響を及ぼす恐れがある」
- ③「人材確保の困難：経営側が現場の声を受け入れず、賃金や労働条件の改善が進まない場合、人材の確保や定着が難しくなり、慢性的な要員不足がさらに深刻化する可能性がある」
- ④「信頼の低下：経営側と現場の認識の乖離が続くと、組織全体の信頼関係が損なわれ、会社の持続的成長に悪影響を及ぼす可能性がある」と回答され、JR東労組が経営姿勢へと指摘しているままの回答で、会場からも東労組に聞いているのか？と思ったと参加者から言われるほどでした。そして、鉄道とバスは同じ公共交通を守る労働者として共にたたかい年末手当満額を勝ちとっていく意思統一をして成功裏に終了しました！

JR東労組に結集し、年末手当等の要求を実現しよう！